

清流

友だちのよさを見つける

私は、この学校だより「清流」を1週間に1回は発行しようと、自分にノルマを課しています。「清流」を書くことに大きな意味とやりがいを感じているものの、根がなまけものの私は、自分にプレッシャーをかけていないと、すぐに楽な方へ流されてしまうのです。今後、「清流」が1週間以上発行されなかった時は、「校長、なまけているな。」と思ってください。

そんな私と同じで、各学級担任も週に1回「学級通信」を発行しています。こちらは、以前の学校だよりでお知らせしました「働き方改革」の中で、学校全体として、記事部分は2週間に一度書くことで統一しています。それでも、記事部分を書くのはなかなか時間がかかる仕事で、担任は発行週の週末になると記事作成に一生懸命取り組んでいます。私は、それらすべての学級通信に目を通しますが、少し前に発行された6年生の学級通信に次のような記事がありました。

友だちのよさを見つけよう

木曜日、自分のよさや友だちのよさに気づいてほしいと考え、友だちにいいところを書いて伝える授業を行いました。友だちのいいところを考える前に、自分のいいところを考えてみましたが、なかなか書くことができない子どもがいました。しかし、学級のみんなに書いてもらったいいところを見ている子どもたちの表情はとても嬉しそうな様子でした。最後の感想には「みんなの気持ちを知れて嬉しかった。」「これから自分のよさを伸ばしていきたい。」など前向きな内容ばかりで、私も読んでいて嬉しくなりました。

実際の授業の様子も見ましたが、とても素敵な授業が行われているなあと感じました。まんざらでもない自分の姿に気付くとともに、以前、本学校便りでも触れたことがある「視点を変えることで、見えてくるものがまったく違ったものになる」ということも学べたように思います。

子どもたちが見つけた「友だちのよさ」は、次のようものでした。

- ・いつも笑顔が素敵で、〇〇ちゃんの笑顔、みんな大好きだと思います。
 - ・みんなに優しく平等に接してくれるところ。明るいところ。
 - ・元気いっぱいだね。たまにうるさいところもあるけど、盛り上げてくれてありがとう。これからも笑顔いっぱい笑わせてね。
- 自分のことではないのですが、読んでいて嬉しくなります。

本校の児童の自尊感情が全体的にあまり高くないことは、アンケートの結果等で分かっております。しかし、子どもたちの本当の姿は、自分たちが思っている以上によい面がたくさんあるのです。自尊感情が高まることは、自他の人権を大切に考えることができる基盤となるものです。今回の授業は確実にその基盤を強くすることにつながったといえるでしょう。

本校では、10月29日から11月9日まで人権旬間でした。各学級で人権についての授業が行われたり、人権集会が行われたりしました。それらの取組に加え、日頃の授業の中でも、今回の6年生のような授業を重ねることで、子どもたちの人権感覚が高まっていけばと願っています。